

日本家族看護学会 2024 年度 国際交流委員会企画報告
「患者の声を聞く意思決定支援—家族の文脈を大切にしたケア—」

日本家族看護学会 国際交流委員会では、2025 年 2 月 8 日（土）に国際交流委員会企画セミナー「患者の声を聞く意思決定支援—家族の文脈を大切にしたケア—」をオンラインにて開催しました。本企画は、国際交流委員会が会員への国際交流支援の一環として実施している Small Group 活動の参加者が日本の家族看護を発信し、交流する場としての役割も担っています。本企画は、日本国内外の家族看護に関心をもつ研究者・実践者が一堂に会し、文化や制度の異なる地域における意思決定支援について意見を交わす貴重な機会となりました。当日は、国内参加者 21 名（スモールグループメンバーを含む）、国外参加者 9 名、委員 7 名の計 37 名が参加しました。

【開催概要】

- 日時：2025 年 2 月 8 日（土） 14 時－16 時
- 開催方法：オンライン開催（ZOOM）
- 参加費：日本家族看護学会員 無料 非会員 1,000 円
- 内容：

話題提供①

Dr. Anna Lee(延世大学校／韓国)

『Patient-Centered Decision Support: Care That Respects Family Contexts』

患者中心の意思決定支援（Patient-Centered Decision Support）の概念と、韓国におけるその課題と展望について講演されました。講演では、Shared Decision Making（SDM）の歴史的背景や国際的な潮流を踏まえつつ、韓国社会において SDM が十分に浸透していない文化的・制度的背景（診断開示の忌避、医師主導型の診療体制、情報格差など）を解説されました。また、発表の後半では、発達障害児をもつ家族の療育・治療に関する体験を通じて、家族中心ケア（Family-Centered Care）の重要性を定性的研究の結果を用いて示されました。韓国で実施されたフォーカスグループインタビューの結果からは、公共支援の迷路のような制度、家族と治療を織り合わせながら歩むプロセス、専門職との協働、セルフヘルプグループからの支援など、具体的な支援ニーズが浮かび上がりました。これらの知見は、文化や制度の違いを超えて、日本における家族看護の実践にも示唆を与えるものでした。

話題提供②

Dr. Chia-Chun Tang, Dr. Wei-Wen Wu(国立台湾大学)

『End-of-Life Decision-Making Among Adolescents and Young Adults: Insights for a Study Series in Taiwan』

台湾における思春期・若年成人（Adolescents and Young Adults: AYA）を対象とした終末期の意思決定に関する研究を紹介されました。AYA 世代のがん患者は、高齢者とは異なる

り予後に対する楽観的な見通しを持ち、終末期においても集中的な治療を希望する傾向が強いにもかかわらず、緩和ケアの利用は限定的であることが報告されました。本研究は、がん治療が奏効しなかった AYA 世代を対象に、半構造化・反復型のインタビューを通じて、終末期の意思決定プロセスをグラウンデッド・セオリーを用いて分析したものです。研究参加者は、自身の治療選択において、家族との時間を最大化する意向や、生活の質（QOL）の確保、「良い死」への期待など、さまざまな価値観のもとで揺れ動く意思決定をしていることが明らかになりました。特に、親の反応への配慮、自責や期待への対応、医療者への支援要請など、個人の価値観と家族・文化的背景が複雑に絡み合っている様子が浮かび上がりました。本講演は、日本における AYA 支援のあり方を考えるうえでも示唆に富む内容でした。

話題提供③

JARFN Small Group メンバー：(福井美苗氏、森口ふさ江氏、加藤紀子氏、下山結衣氏)

『日本の小児医療における意思決定支援について スコーピング・レビュー』

本報告では、日本の小児医療における意思決定支援に関する国内文献を対象としたスコーピング・レビューの結果が紹介されました。レビューの結果、看護師による支援を中心とした文献が多く、医師やリハビリ専門職など他職種の関与を扱った研究は限られていることが示されました。また、意思決定支援においては、子どもの発達段階の理解、家族の価値観の尊重、医療チームとの協働といった視点が重要であることが浮き彫りとなりました。本報告は、小児医療における意思決定支援の現状を整理し、今後の多職種連携・国際比較研究の基礎資料として有用な示唆を提供するものでした。

話題提供④

JARFN Small Group メンバー：(池田麻左子氏、佐藤律子氏、渡邊さやか氏、江南沙里菜氏)

『児の成長発達に合わせた退所支援』

本 Group からは、メンバーからの体験事例からの話題提供でした。この事例は、「医療的ケア児にとって、成長発達に応じた生活の場とは何か」「退所支援において、多職種間の価値観の違いをどのようにすり合わせるべきか」「小児本人や家族にとっての“最善”とは誰がどのように判断すべきか」といった問いを含んでおり、看護師と介護士が互いの専門性や立場の違いを尊重しながら協働すること、そして医療的視点だけでなく生活の質や発達段階への配慮を踏まえた包括的な支援体制の構築を提案している事例でした。

● ディスカッションと交流会

ディスカッションでは、話題提供者への質疑応答も含め、アジアの文化圏に共通する価値観や課題を共有しながら、活発な意見交換が行われました。たとえば、医療者は子どもよりも親に説明し、意思決定を求める傾向があったり、意思決定に父親や祖父の考えが強く影響していたりという文化的背景がアジアにはあるということも共有されました。また、話題提供②の台湾の研究については、AYA 世代を対象に非常にセンシティブなインタビューを実施していますが、



写真：参加者との記念撮影（掲載の許可を得ています）

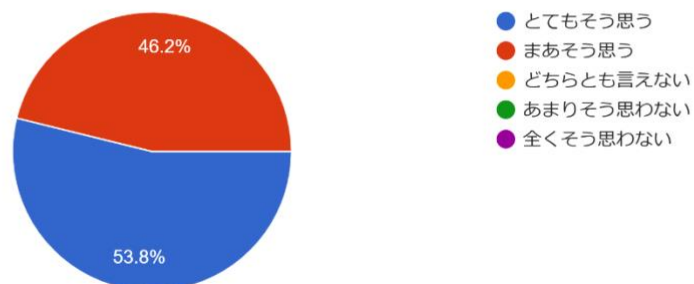
【参加者へのアンケート結果】

- 参加者年齢 30代：1名、40代：3名、50代：6名、60代：2名
- 性別 女性：12名、男性：1名
- 勤務先 看護系教育機関：9名、病院・クリニック：3名、その他（中学校）：1
- 日本家族看護学会会員数 会員：10名、非会員：3名
- アンケート項目と結果

1. 本日の内容はあなたの参加希望に沿っていましたか？

1. 本日の内容はあなたの参加希望に沿っていましたか？

13件の回答



2. 問1のご回答の理由について具体的にお教えてください（太字は内容をまとめたもの、簡条書きは生データ、カッコ内は回答数）

文化圏の近い地域の方と同じ話題について情報交換・ディスカッションできたことが良かった (4)

- ・ IFNA の中で、文化の近いところもあるアジアの人たちが情報交換をすることは、とても意味のあることなのではと思いました。
- ・ アジア圏の日本以外の国の意思決定支援における家族へのサポートの考え方をしることができた
- ・ Issue が共通していたのと、コミュニケーションのサポートもあり、とても Deep なディスカッションができたと思います。
- ・ 子どもの意思決定支援には、家族の役割や個人の捉え方が影響すると思いますが、文化が違っていても同様の課題や現状があることを知ることができた。

子どもと家族の意思決定について理解が深まった (3)

- ・ 小児、思春期の患者の意思決定について理解を深めることができた。
- ・ 主に小児看護学領域のお話でしたが、成人・老年看護学との違いや両方に通じるものをととてもわかりやすく学ぶことができました。また、韓国や台湾という隣国が似たような環境であることを改めて実感しました。
- ・ とても短時間の参加になってしまいましたが、他の国々の取り組みや、他国の家族支援や意思決定支援の考え方を知ることができとても勉強になりました。

他の国・文化圏の話も聞きたかった (2)

- ・ もう少し、多様な国の方の意見が聞ければ尚良かった。
- ・ 子どもの意思決定支援には、家族の役割や個人の捉え方が影響すると思いますが、文化が違っていても同様の課題や現状があることを知ることができた。

自身の研究に役立つ内容だった (1)

- ・ 大切なキーワードに触れることができた。また、発達障がいや青年期の研究を通し、研究のポイントを見つけるきっかけになった。

英語でのセミナーだったので、十分に理解できなかった (1)

- ・ 海外の知見を得られる事は大変有意義ですが、私自身の言葉の問題が大きく、十分に理解することが困難でした

3. 国際的な活動をするために、学会からどのような支援があれば参加がしやすいと思いますか？ (太字は内容をまとめたもの、箇条書きは生データ、カッコ内は回答数)

今回のようなテーマが決まった交流会の開催 (7)

- ・ 定期的な開催。
- ・ こういったディスカッションの機会の創出
- ・ 今回のような発表会、討論会、共同研究など
- ・ こういった場に参加したり、発表する機会はとても貴重だと思います。
- ・ 今回のような同じテーマについて、研究成果に対する意見を聞ける場所の支援

- ・研究者の紹介。本日のように関心のあるテーマが似たような研究者が集まる機会は、とても良い機会だと思いました。
- ・海外の研究者や臨床実践者の先生方に個人的にコンタクトを取るのは難しいので、このようなセミナーの機会はとてもありがたいです。

字幕や翻訳など、英語への支援の充実（2）

- ・英語が不自由なため、即時字幕などの支援があると参加しやすい。
- ・翻訳版の資料をいただけて大変ありがたかったです

4. 本セミナーに参加することで、初めて知ったことがあれば、お教えてください。（太字は内容をまとめたもの、箇条書きは生データ、カッコ内は回答数）

他国の意思決定支援の現状（2）

- ・SDMはchild and family centered careととても近似しており、今後さらに忙しくなる医療現場では、看護師の支援がもっと重要になってくるであろうこと。
- ・台湾や韓国の意思決定の現状

他国の研究方法や倫理的配慮（2）

- ・本セミナー中にも意見交換がありましたが、台湾のタン先生のご研究のように、病状がとても深刻な若い対象者のリクルートやインタビューをする際の配慮については、日本では非常に難しいと思いますので、大変参考になりました。
- ・他国でのリサーチ状況

スモールグループ活動について（1）

- ・家族看護学会の活動、特にこのようなスモールグループ活動がある事。

5. セミナーの今後のテーマとしてご希望があれば自由に記載ください。（太字は内容をまとめたもの、箇条書きは生データ、カッコ内は回答数）

今後学会で希望する具体的テーマ（4）

- ・こどもに関わる意思決定について、多職種の見え方を知りたいと思った。今回スコーピングレビューを通し、看護師の文献が多かったが、医師やリハビリ専門職もこどもの意思を大事にしていこうとする研究も見つけられた。多職種の今、感じていること、看護師に求めるものに関心がある。
- ・各国の医療的ケア児の現状と在宅移行への現状
- ・現在の家族看護学教育の方法についての諸外国との意見交換
- ・アジアの各国における家族看護学研究の動向に関心があります。家族のとらえ方や家族の関係性、役割などに似ている点もあると思いますが、違いも多くあると思いますので、他国でどのような研究や実践が行われているのか、知る機会があると嬉しいです。

今回のようにテーマが決まっている交流会（3）

- ・テーマがしっかり決まっていたので去年より海外の方の発表と日本の発表がリンクして良かったと思います！個々の発表の質問タイムより、ディスカッションとして時間を取っていたことも各国の話を聞けて良かったです
- ・今回のように、家族支援の issue を設定し、ディスカッションする場を作ってほしい。
- ・大変勉強になりました。